

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成22年は15万9千トンとなりました。

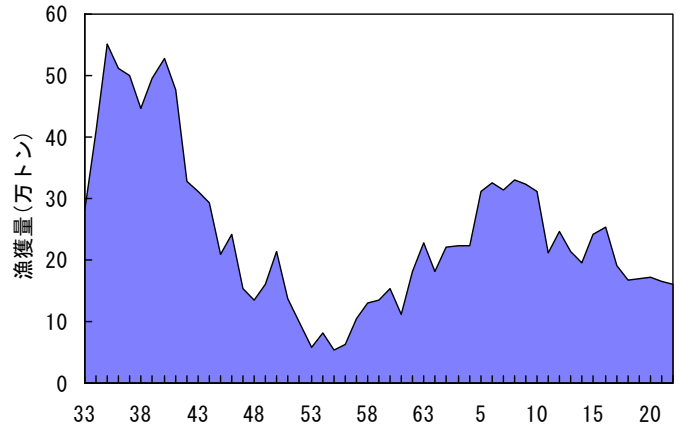


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 平成24年7～9月期の漁況の経過

##### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島、川内沖、串木野沖に漁場が形成されました。

薩南海域では、開聞沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、マアジ小、豆（1歳魚：平成23年生まれ）主体に352トンの水揚げがあり、前年の202%及び平年の37%となりました。

#### 3. 平成24年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔（0歳魚：平成24年生まれ）、マアジ小（1歳魚：平成23年生まれ）でマアジ中（2歳魚以上）も混じるでしょう。

来遊量は、前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ0歳魚は、これまで低調に推移していることから、前年、平年を下回ると考えられます。マアジ1歳魚は、これまで順調に推移していることから前年を上回るものの、平年を下回ると考えられます。

総合的に判断すると、前年並で、平年を下回ると考えられます。

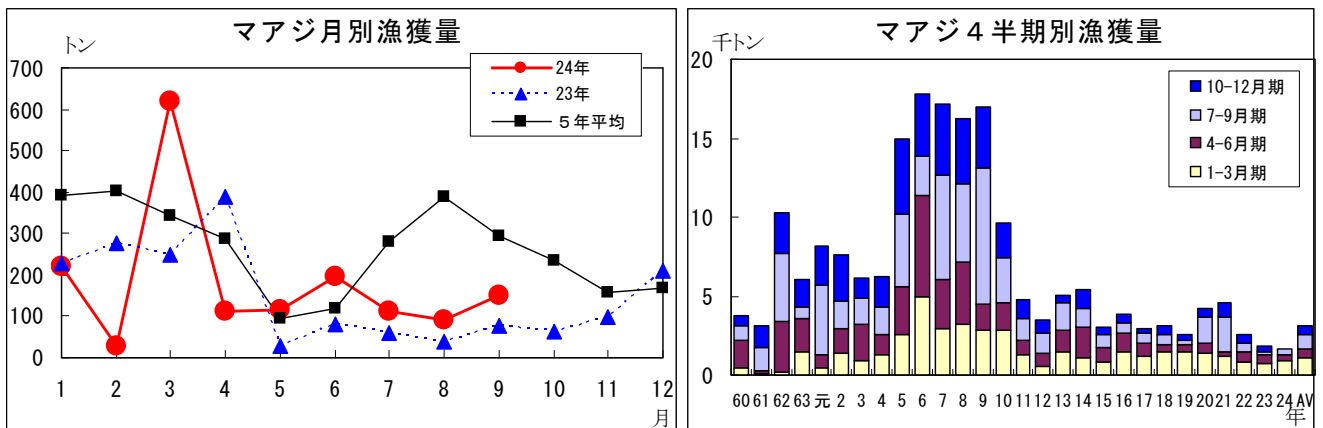


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値(AV)、平成24年9月26日までの水揚げ量を使用

## [サバ類]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、その後減少し平成14年は27万9千トンになりました。平成17年から再び増加し平成22年は49万2千トンとなりました。

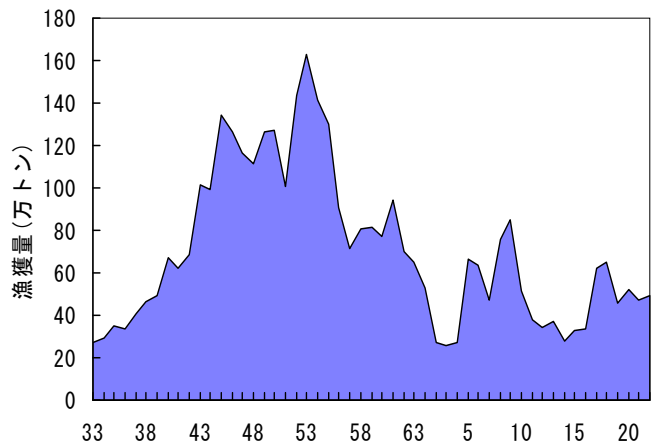


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 平成 24 年 7～9 月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島北、甌島西に漁場が形成されました。

薩南海域では、竹島周辺、種子島東に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、北薩海域でサバ豆（0歳魚：平成24年生まれ）主体、薩南海域ではゴマサバ中、中小（2歳魚：平成22年生まれ）主体に2,576トンの水揚げで、前年の29%及び平年の53%と低調に推移しました。

### 3. 平成 24 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小、中（2歳魚：平成22年生まれ）となるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバ0歳魚及び1歳魚は、加入状況が非常に低調であることから、前年・平年を下回ると考えられます。ゴマサバ2歳魚は、今期も漁獲の主体として来遊しますが、前期の漁獲状況から前年を下回るものの、平年を上回ると考えられます。3歳魚以上は、来遊する期間ではなく若干混じる程度と考えられます。総合的に判断して、前年・平年を下回ると考えられます。

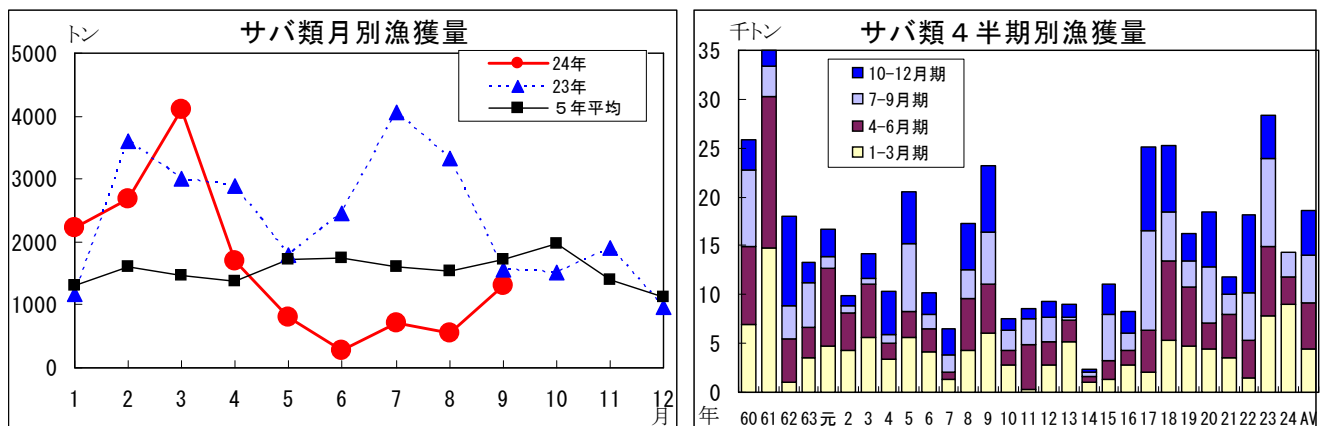


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値(AV)、平成24年9月26日までの水揚げ量を使用

## [マルアジ（アオアジ）]

### 1. 漁獲量の動向（水産技術開発センター調べ）

マルアジの漁獲量は、昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しました。平成 16 年以降は低調に推移し、21 年は過去最低の 94 トンとなりましたが、22、23 年はやや増加し、23 年は 478 トンとなりました。

### 2. 平成 24 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

各海域ともに低調で、まとまった漁獲はなく、期全体で 13 トンの水揚げで、前年の 15 % 及び平年の 25 % でした。

### 3. 平成 24 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ豆（1 歳魚：平成 23 年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

マルアジの漁獲量は、近年低調に推移していることから、前年・平年を下回るでしょう。

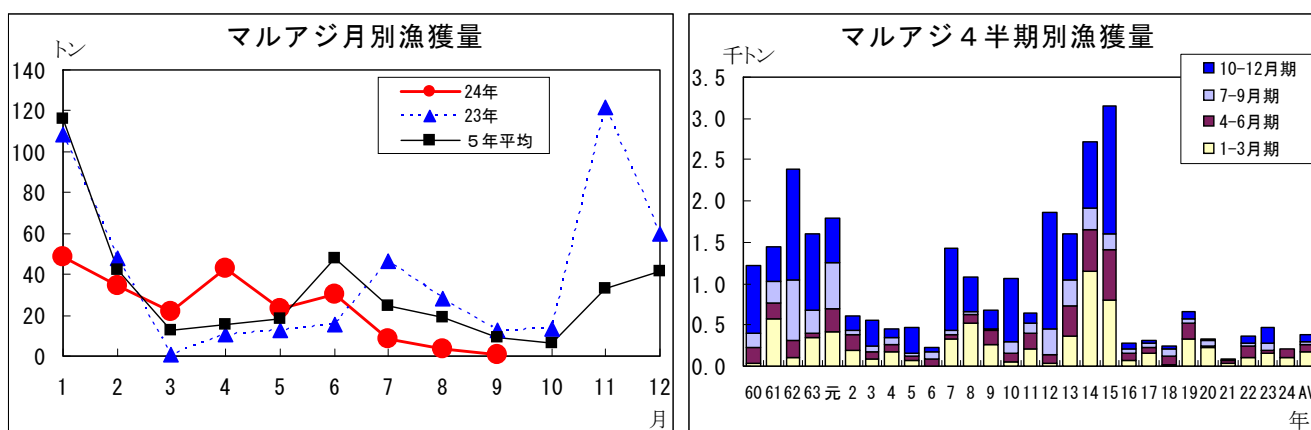


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値(AV)、平成 24 年 9 月 26 日までの水揚げ量を使用

# [マイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。

その後さらに減少し平成14年は5万トンとなり、以降横ばい傾向で平成22年は7万トンとなっています。

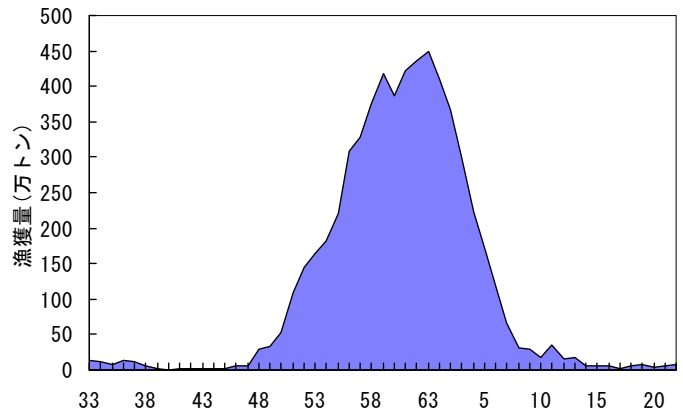


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 平成 24 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、天草沖、牛深沖で、薩南海域のまき網では、鷹島でウルメイワシに混じり漁獲されました。

4 港計のまき網では、小羽（0 歳魚：平成 24 年生まれ）主体に 289 トンの水揚げで前年の 62%，平年の 106% でした。

北薩海域の棒受網は、14 トンの水揚げで前年の 12%，平年の 26% でした。

## 3. 平成 24 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、小、中羽（0 歳魚：平成 24 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年並みで、平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

本県への来遊は散発的なものにとどまると考えられますが、前期（7～9 月期）に引き続きウルメイワシに混じって漁獲されると考えられます。

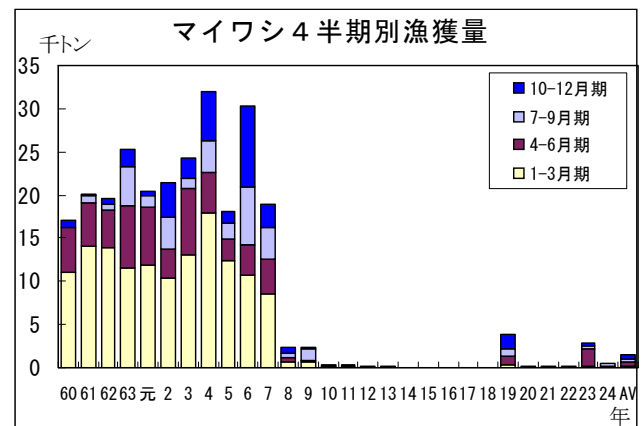
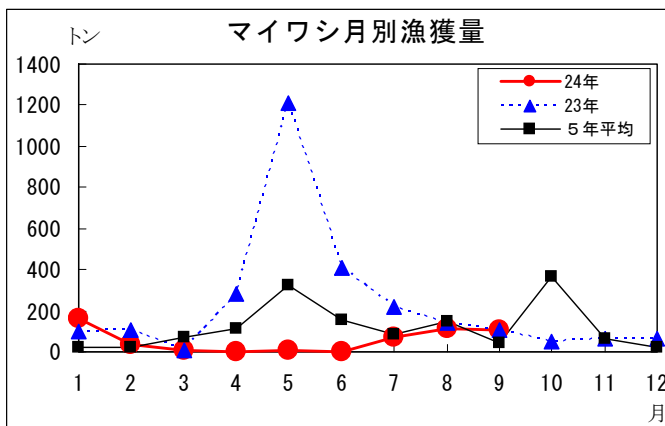


図 マイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値 (AV)，平成 24 年 9 月 26 日までの漁獲量を使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりました。その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりましたが、近年は増加傾向となり、平成22年は5万トンでした。

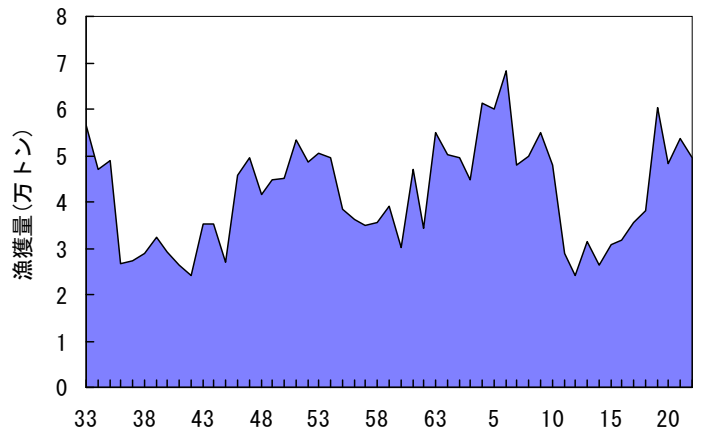


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成 24 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域では、鷹島、西新曾根に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小羽(0 歳魚：平成 24 年生まれ)主体に 2,713 トンの水揚げがあり、前年の 141%，平年の 220%と好調に推移しました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖にかけて漁場が形成され、小羽(0 歳魚：平成 24 年生まれ)主体に 976 トンの水揚げがあり前年の 62%，平年の 96%となりました。

## 3. 平成 24 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、小・中羽(0 歳魚・平成 24 年生まれ)主体になるでしょう。

来遊量は前年を上回って、平年並となるでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期は、九州東岸を南下し薩南海域で漁獲される群が主体となります。

太平洋南部各県は、今期の予測を豊漁であった前年は上回らないが、概ね好調で推移していることから、薩南海域への来遊は、前年を上回り、平年並になると考えられます。

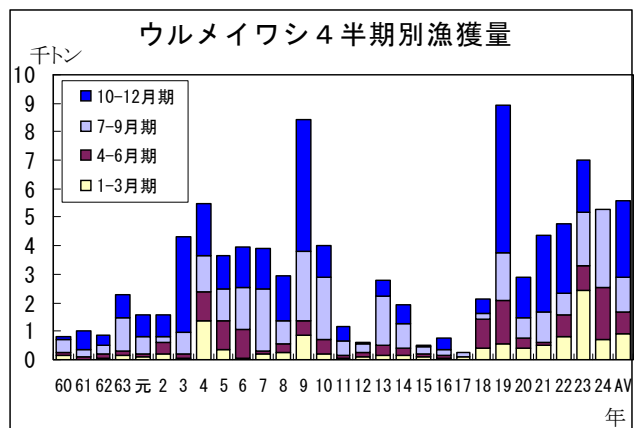
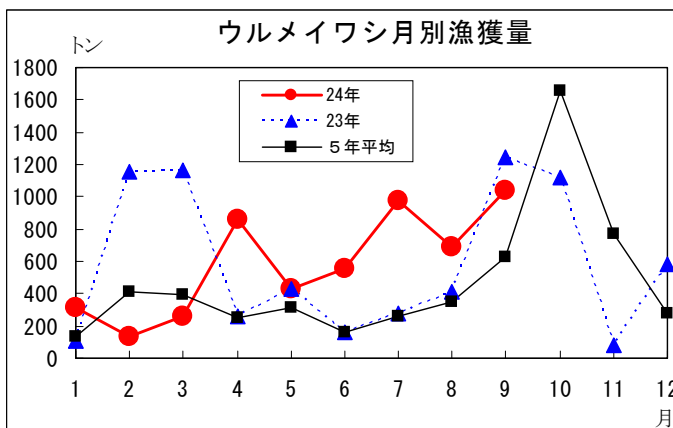


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値(AV)、平成 24 年 9 月 26 日までの漁獲量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成13年は30万トン、平成14年は44万トンでした。平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成22年は35万1千トンとなりました。

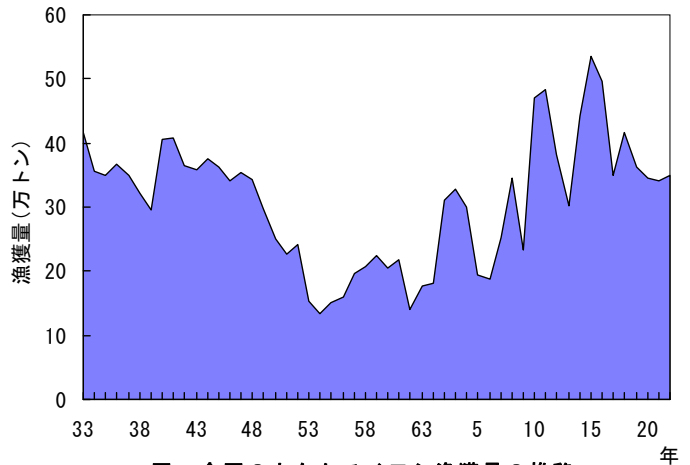


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成 24 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では長島、甌島東、野間池沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では中羽～大羽（0, 1 歳魚・平成 23 年生まれ）主体に 421 トンの水揚げで、前年の 88 %，平年の 67 %でした。

北薩海域の棒受網では小羽～中羽（0 歳魚・平成 23 年生まれ）主体に 278 トンの水揚げで、前年の 89 %，平年の 100 %でした。

## 3. 平成 24 年 10～12 月期の見とおし

中羽（0 歳魚・平成 24 年生まれ）と大羽（1 歳魚・平成 23 年生まれ）が漁獲の主体となり、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

前期の漁況から、10～12 月期の来遊は前年・平年を上回ると考えられます。

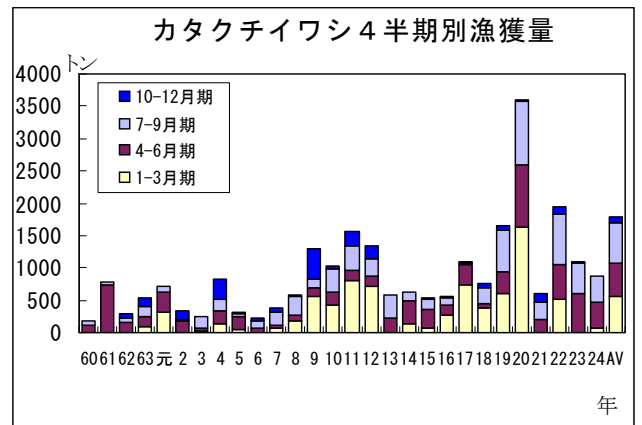
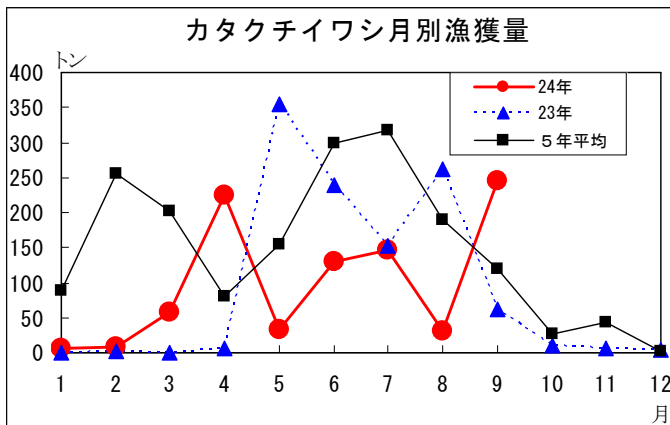


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値(AV)，平成 24 年 9 月 26 日までの漁獲量を使用

[イワシ類参考資料]

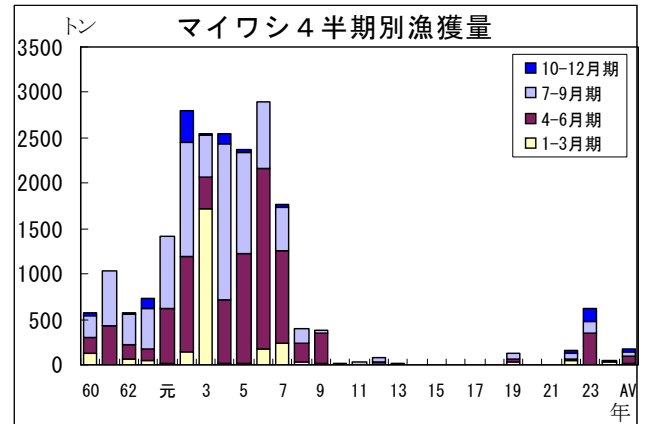
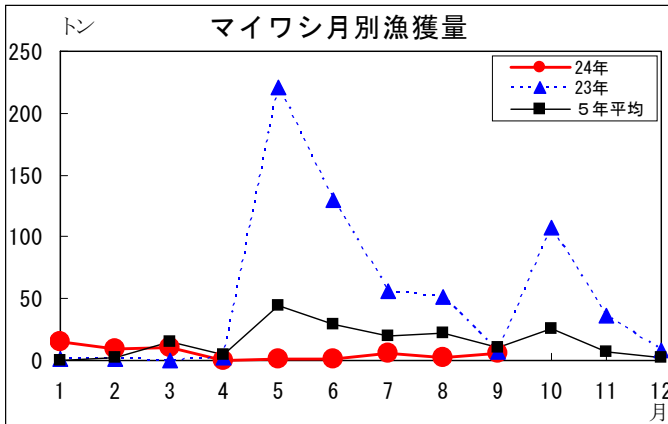


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

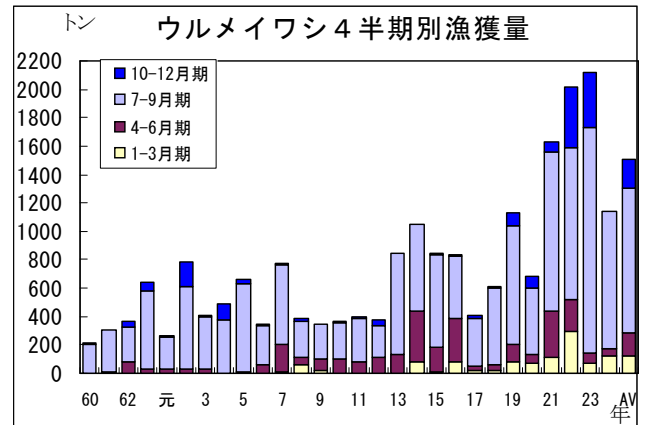
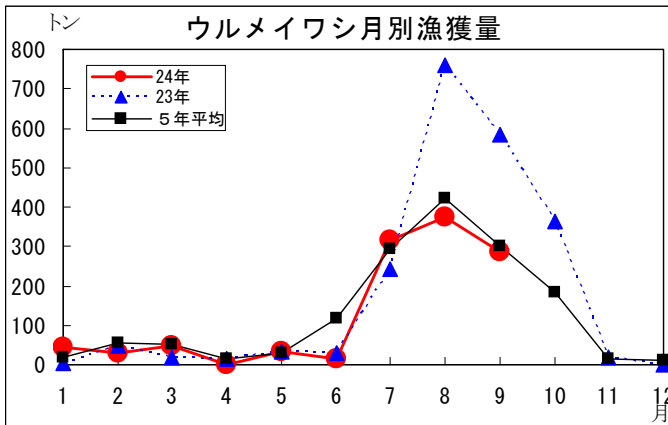


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

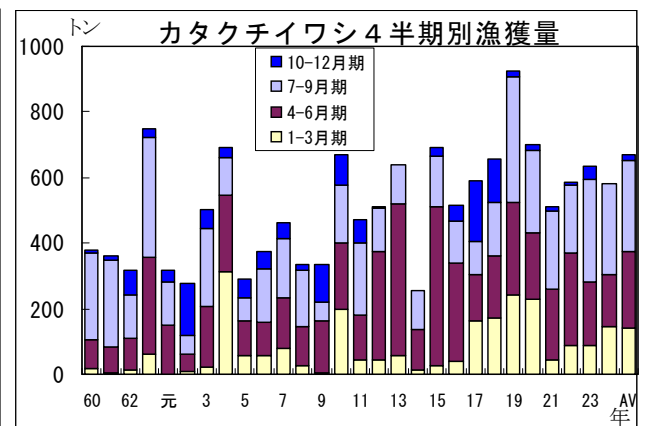
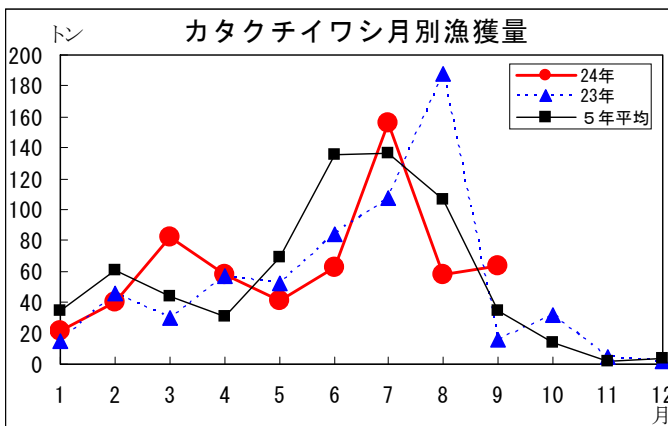


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成19~23年)の平均値(AV),平成24年9月26日までの漁獲量を使用



## [参考：漁況経過のみ記載]

### 〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（4港計）〉

#### 1. 経年変化及び平成24年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トン进行ピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成23年は4,480トンとなりました。

平成24年7～9月は、薩南海域では、クサヤモロ中小、豆、モロ小主体に漁獲されました。期全体で919トンの水揚げで、前年の130%及び平年の187%となりました。

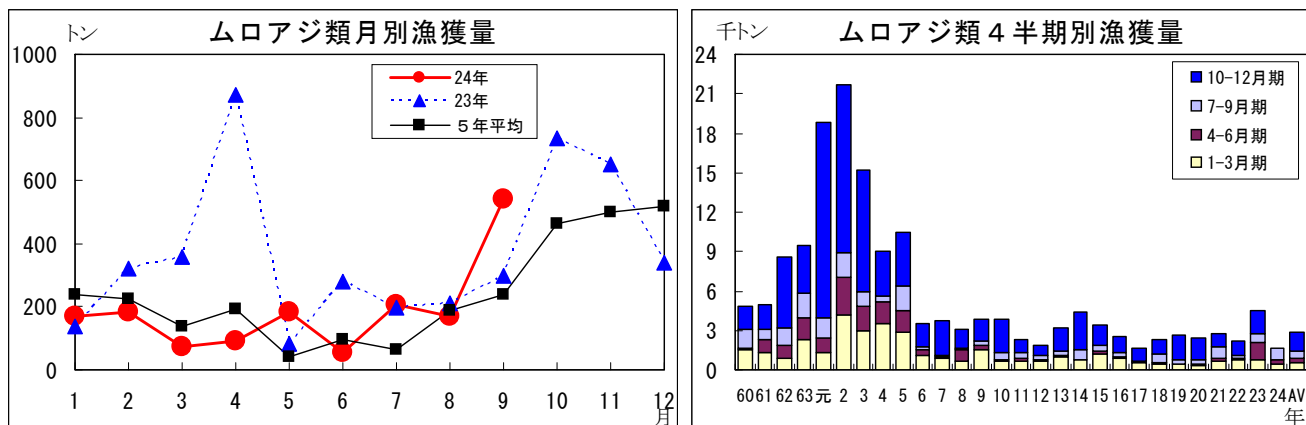


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成19～23年)の平均値(AV)、平成24年9月26日までの水揚量を使用

### 〈オアカムロ(4港計)〉

#### 1. 経年変化及び平成24年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成23年は1,498トンとなりました。

平成24年7～9月は、薩南海域では、7月、8月にオアカムロ中小主体に前年・平年並の漁獲がありましたが、期全体で179トンの水揚げで前年の76%及び平年の57%と低調に推移しました。

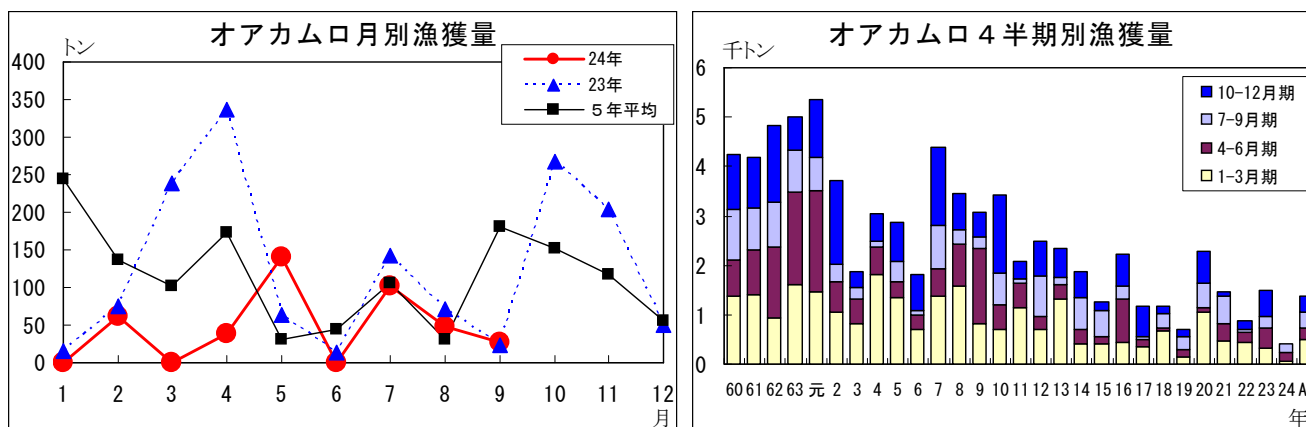


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成19～23年)の平均値(AV)、平成24年9月26日までの水揚量を使用